

授業改善等に関する報告書（2019年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------|--------|--|
| 調理学及び実習 | 大須賀 彰子 | 本実習において受講学生は少人数で教員の目も十分に行き届き、質問に対してもその都度対応できたことが、概ねの項目に対して高評価につながったと感じております。また自己採点の評価に主に技術的な面と考えます。技術は実習時だけでなく、日常的に調理を行うことで身につけていくものであるため、本授業をきっかけに習慣づけてもらえれば幸いです。 |
| 家庭工学 | 加藤木 秀章 | 現代では、工学によって家庭が変わってきました。授業外で身近な携帯やPC、空調、こたつ、アイロン、ミシンなど様々な製品を調べてみると、学修効果が高められると思います。 |
| アパレル生産 | 大川 知子 | 約4ヶ月の授業、お疲れ様でした。みなさんからのアンケート結果を拝読しました。課題は「資料の分かり易さ」でしたので、来年度は工夫を凝らします。今年度は、例年よりもグループワークを増やしてみましたが、それでも授業の双方向性はあまり実感して貰えていなかったようで、その点も改善が必要だと感じています。 全体として、「どちらかと言えばあてはまる」も含め、95.9%の方達に「更にこの分野を学びたい」と思ってもらえ、総合的満足度も91.7%でしたので、見学等も含めて、みなさんの生産に対する理解が深まったのであれば良かったです。 |
| マルチメディアデザイン演習 | 山崎 和彦 | 月曜日限という最悪の時間帯であるにも関わらず、よく受講されたと思う。なお私として土曜日曜に出勤し、この科目の準備を行ったのである。漫画やドラマが「次回に続く」となると気分がスッキリしない。そこで本実習も1回で終わらせるタイプとした。つまり欠席することは、そのまま「体験なし」に直結する。体験してこそその実習である。毎回3名ほどの欠席者があり、残念であった。 |
| 色彩設計演習 a | 槇 究 | 全体に評価が高めでした。特に、今後この分野を学んでみたいの評価が高かったのは嬉しいです。ぜひ、学びを継続してください。説明の分かりやすさについては若干評価が低めでした。特にaのみを受講している人への対応を考えてみたいと思います。 |
| 栄養学 | 於保 祐子 | 各栄養素の生体における意義や、それらがどのようにして生命活動に結びつくかを学び、こうした知見を疾患予防など今後の暮らしに生かす力をつけていただければと思います。講義をしました。多人数での双方向授業などは今後の課題として考えてゆきます。 |
| 色彩設計演習 b | 槇 究 | 説明の分かりやすさが低め、今後も学び続けたいが高め。そんな結果でした。コンピューター環境のおかしさなどがあったので、分かりづらさが増幅されていたと思います。環境としての複雑さを減らすことをまずできればと思います。今後の学びは個別になると思いますが、デザインの機会も増えるので、得られた知識を有効活用して欲しいと思います。 |
| 生理学 | 山崎 和彦 | 学生諸君による「授業評価」に対抗して、「授業に臨む学生の態度の評価」を行うと、本年度の学生は10点を満点とすれば7点である。いつもなら、前列側に座る学生が数名はいるのであるが、今回は全体が遠方に寄っていた。視力や聴力がその分、優れているというわけではない筈だが。 |
| 繊維高分子材料実験 | 加藤木 秀章 | 実験での授業は、講義で学修した内容が基礎から応用まで出てきます。さまざまな視点から現象などについて調査・考察したりすると、より効果的です。 |
| 建築構造 | 橋 弘志 | 建築構造は毎回の授業の積み重ねであり、基本的に復習をきっちり行うことで理解ができるような組み立てとしている。各回授業の冒頭に行う再テストで復習の確認を行っているが、及第点に達しない場合には、再度該当箇所の復習を行ってから再テストに臨むような形にしている。授業後まで時間が延びることになるが、分からないときはどんどん質問を受け付けていたので、そこで少しずつ理解が進んでくれることを期待した。予習復習用の問題集については、手作りのためいろいろと修正点があり、少しずつ見直して改善していく。 |
| テキスタイル材料学 | 加藤木 秀章 | 近年、テキスタイルを扱う事例が多くなっています。毎回、授業後の復習を行うと、現代に必要なテキスタイルについて深く学べると思います。 |

[2019 (後期) 生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|--------------|--------|---|
| インテリアデザイン論 | 山口 照也 | <p>まず、レポート課題提出結果についてコメントします。</p> <p>① 皆さんが課題対象とした空間の割合は、共同生活空間64%、個人生活空間31%、1R住居2%、生理衛生空間1%、住居全体1%で、昨年度よりLDK等の共同生活空間を対象にした人が大幅に増えているのが本年度の特徴で、共同生活空間を課題対象にすると我がままな判断ではなく客観的な判断が必要になるので良い傾向です。</p> <p>② インテリアデザインの分析考察項目の割合は、あかり14%、素材色彩12%、寸法10%、家具10%、床10%、窓8%、ファブリックス7%、出入口6%、屋内環境・設備6%、行為5%、心理5%、壁3%、天井2%、かたち1%、架構1%です。あかり、家具、素材色彩は毎年度ベスト3ですが、床が増え窓が減っているのが今年度の特徴です。</p> <p>③ レポートのみでの評価は、A+評価1%、A評価18%、B評価41%、C評価31%、D評価8%、未提出1%という結果でした。平均点は49/70点でB評価です。昨年度よりA評価が増え、D評価が減っているのは良い傾向です。D評価は、課題要項を守っていないかったり、客観性がなく感想文に近いレポートです。評価には関係していませんが、デザインの思考よりコーディネートの思考のレポートが増えてきているようです。原点から考え、「本質を見抜く力」を</p> <p>アンケート結果について、次のようにコメントします。</p> <p>① 「成長の実感の記述」と「自由記述」に26点のコメントがありました。「理解が深まった」「考える力が身についた」「課題が大変だったが成長できた」等、ほとんど好評価のコメントでした。</p> <p>② 「あなた自身について」の項目で「予習復習時間」は昨年より多くなっており、当該区分平均や全体平均より多いのに、「理解度」が低くなっています。理解度の到達目標を高く設定し過ぎているのかもしれませんが、予習復習時間が多くなっているのは良い傾向です。</p> <p>③ 「この授業の内容と方法について」では、「授業スピード」以外は昨年度より良くなっています。「授業スピード」は、ワークシートの位置付けを変えた事が原因と考えられるので、講義内容を削ることも含めて検討します。</p> <p>④ 「全体について」は、「成長実感度」は昨年度より高くなり、当該区分平均と全体平均より高くなっています。「総合満足度」も昨年度より高くなっていますが、全体平均より低いです。ワークシートを含めた予習復習をしっかりと行い、自信を持って取り組んで欲しいです。</p> |
| アパレルデザイン実習 a | 川上 梅 | <p>この授業を通じて「自分の成長」が「とても実感できた人」は71.4%、「どちらかと言えば実感できた人」は28.6%と、ほとんどの人が成長を実感できたことは嬉しく、授業を行う私自身の励みに繋がります。</p> |
| テキスタイル材料実験 | 加藤木 秀章 | <p>学修効果を高めるには、予習・復習が大切です。また、予習・復習を行うと、授業がわかりやすくなります。</p> |

[2019（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------|--------|---|
| インテリアコーディネート論 | 山口 照也 | <p>まず、レポート課題提出結果についてコメントします。</p> <p>① 皆さんが課題対象とした生活空間の割合は、個人生活空間56%、共同生活空間25%、1R住居17%、住居全体2%、生理衛生空間0%で、昨年とほぼ同じ順位でしたが、自分がコーディネーター兼クライアントになれる自室（個人生活空間）を対象にした人が更に増えたのが今年度と特徴です。他者の立場になって考えなければならない「共同生活空間」を対象にする人が増えて欲しいと願っています。</p> <p>② インテリアコーディネート分析考察項目は、課題要項では2項目以上でしたが、全項目を実践すると「より望ましいインテリアコーディネート」になるはずなので、今後に役立ててください。今年度の割合は、家具38%、照明22%、寝装寝具14%、ウィンドートリートメント10%、内装材7%、建具3%、住宅設備機器2%、インテリアオーナメント2%、キッチン用品1%、造作物品1%でした。上位の家具、照明、寝装寝具、ウィンドートリートメントは、生活者自らコーディネートする機会が多いので、コーディネーターを目指す人はこれ以外のエレメントをコーディネートする必要があります。また、照明を項目にした人が、普通の人と同じように「見栄え」や「価格」で判断し、講義した「色温度種別」や「明るさ（lm：ルーメン）」や「消費電力」等の客観的視点での比較考察が欠けている人が多かったので注意してください。</p> <p>③ レポートのみでの評価は、A+評価6%、A評価11%、B評価36%、C評価30%、D評価15%、未提出2%という結果でした。平均点は48/70点でC評価で昨年度とアンケート結果について、次のようにコメントします。</p> <p>① 「成長の実感の記述」と「自由記述」に13点のコメントがありました。「理解が深まった」「知識が増えた」等、ほとんど好評価のコメントでしたが、1点だけ「課題のプリントが難しかった」とのコメントがありました。本年度からインテリアコーディネーター資格試験練習問題ワークシートの提出を必須にしたので、受験予定の無い人には難しく感じたと思いますが、日常生活でも役立つ知識として実施しています。</p> <p>② 「あなた自身について」の項目で「予習復習時間」が、当該区分平均や全体平均より多く、昨年より多くなっていて良い傾向ですが、「理解度」が当該区分より低く、且つ昨年度より低くなってしまいました。これもワークシートを必須にしたことが原因と考えられます。</p> <p>③ 「この授業の内容と方法について」の各項目は、「授業スピード」以外ほとんど当該区分平均や全体平均より低く、且つ昨年度より低くなってしまいました。これもワークシートを必須にしたことが原因と考えられます。</p> <p>④ 「全体について」では、「専門的に学びたい」以外は当該区分平均や全体平均より低くなってしまいました。「総合満足度」が当該平均区分とほぼ同じなのが救いですが、これらもワークシートを必須にしたことが原因と考えられます。</p> <p>ワークシートは、予習復習時間を増やす事にも役立っているため、継続しつつ内容を検討してみます。</p> |
| 消費科学 | 大川 知子 | <p>みなさんにとって、4年間の最後を締め括る授業担当は、毎回、その責任の重さを感じています。流石に4年生。約4ヶ月に亘り、どの課題も、グループワークも主体的に、大変熱心に取り組んで頂き、わたしからも感謝の気持ちを伝えたいです。</p> <p>所謂「学校」での学びは、この3月で終わりを迎えるかもしれませんが、社会に出てからこそ、主体的に学び続ける人、そうでない人では徐々に差が出て来ます。どうか、みなさんの今の姿勢を失わず、頑張ってくださいと切に願います。</p> |
| 色彩学 | 楨 究 | <p>全体に平均的な評価より低め、今後の学びなどが平均的といった結果でした。</p> <p>講義形式に別のやり方を組み込んでいくことを考えているのですが、テストの結果などを考えると、あまり効果的に働いてはいらないように思います。次回の授業に向けて、新たな取り組みを模索しようと思います。</p> |
| 人間工学 | 佐藤 健 | <p>授業前小テストは、実施するようになってからは、一番良い出来栄です。幅広い知識と関心を期待します。</p> |
| 基礎造形演習 | 塚原 肇 | <p>この授業は開講して2年目です。できるだけ3年以上の専門の授業に役立つように工夫を重ねて内容を充実させていくつもりです。改善等の意見があれば自由に言ってください。</p> |
| ファッション企画論 | 川上 梅 | <p>「説明の分かり易さ」と「総合的に判断して授業に満足」には深い関係が見られます。「満足」と回答した学生の100%が「分かり易い」と回答し、「どちらかと言えば満足」と回答した学生の100%が「どちらかと言えば分かり易い」と回答しています。また、授業評価を行った学生の20%が「4回以上欠席」したと回答しています。「分かり易い授業」を成立させるためには、学生自身の意識付けも必要です。</p> |
| 繊維高分子材料学 | 加藤木 秀章 | <p>毎週、授業前後に専門用語、式、わからなかった箇所などをよく調べ、学修すると効果的になると思います。近年、より広く繊維を扱う時代となりました。この分野の知識が必要になります。</p> |

[2019（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-----------|--------------|---|
| 消費生活学 | 杉本 公枝 | 授業の内容が、シラバスの内容や到達目標と一致していると肯定的に評価されたことは今後の励みになります。ただ、授業であれもこれも伝えようと説明が多岐にわたったために、理解が得られなかった面があったことがアンケート結果からわかりました。今後は、学生の理解度を高めるためにこの点を改善していきたいと思っています。 |
| 住環境・設備学 | 川西 縫衣子 | 本授業の狙いは、環境設備学の知見を深め2級建築士の問題に回答できる知識を身につけることでした。授業では、初めて聞く専門用語や数式などがたくさん出てきて大変だったと思いますが、アンケート結果やテストの点数から分析すると理解度は良好で本授業の目標は達成できていると感じます。特に期末テストでは、少しひねった問題も出題しましたが、正答率も高く皆さんの日頃の学習の成果が十分に発揮できていたと解釈しています。お伝えした内容が多かったために授業の進みが早くなりがちだった部分があったと思いますが、頑張って授業についてきて下さった皆さんに感謝します。皆さんの今後のご活躍を期待しております。 |
| 生活環境基礎 c | 牛腸 ヒロミ, 塚崎 舞 | アンケートの回答率が少々低いのが残念ですが、回答した学生の中では、「全然わからなくて、大変だった!」という学生がいないようで安心しました。とくに文系だった学生にとって未知の世界ですので、毎回の復習は必須ですが、どうやら皆さんの自己学習時間が短いようです。ぜひ、授業内でご紹介した参考図書等で学習を深めてください。 |
| 生活環境学演習 | 大川 知子 | 10の研究室を回って頂くことで、それぞれの研究室の特徴や、各教員の個性を知り、今後の学びの役に立てて頂けたのなら良かったです。 |
| 生活環境学演習 | 加藤木 秀章 | 授業で気付いた点があれば、ノートにまとめ、授業外で見直しや独自に調べたりすると、さらに学修効果を高めることができます。 |
| 生活環境学演習 | 川上 梅 | この授業の目的の一つは、適切なゼミ選択にあります。3年生からはそれぞれのゼミ活動を通して、残りの大学生活を充実させてください。 |
| 生活環境学演習 | 牛腸 ヒロミ | 展開している授業に満足していると理解しました。今後も受講生の興味を引くような説明を心がけます。 |
| 生活環境学演習 | 佐藤 健 | 次のゼミを楽しみにしてください。 |
| 生活環境学演習 | 塚原 肇 | プロダクトデザインの世界を理解できましたか。とっても重要で面白い世界です。多くの学生が興味を持ってくれることを望みます。 |
| 生活環境学演習 | 楨 究 | 全体的に評価が高めでした。今後、専門的になっていく学びのベースとして、得られたことを行かしてもらえればと思います。 |
| 生活環境学演習 | 山崎 和彦 | 昔、私は「この実験装置ではどのような研究ができると思いますか」と学生にいきなり尋ねた。すると大概は言葉に詰まる。そこで一瞬で回答することの重要性を説いた。加齢が進んだ為か、この頃は、互いに黙ったまま、時間を過ごすことに意義があると思うようになった。 |
| 生活環境学セミナー | 大川 知子 | コメントが無いので、こちらとしてもコメントがし難いのですが、様々なところへ出向いたり、いろいろな方々にお目に掛かった経験が、みなさんの成長の糧になればと思います。 |
| 生活環境学セミナー | 川上 梅 | ファッションショーは製作とショーの両面があり、様々な能力が求められましたが、それぞれの得意分野を発揮し、学生が主体的に作り上げたショーであると高く評価しています。回答者（58.3%）全員が、成長を実感し、満足しているという点でも、充実したゼミ活動になったと考えています。 |
| 生活環境学セミナー | 牛腸 ヒロミ | 十分に理解できた人と時々理解ができなかった人にわかれてきました。この授業はアクティブラーニングですので、理解できなかった人は自分の知識や技術が他の人に比べて足りないという事を自覚して、より知識や技術を高めるべく努力をする必要があると思います。教師や友人に聞いたり教えてもらおうのも努力のうちです。 |
| 生活環境学セミナー | 佐藤 健 | 1年間お疲れ様でした。各自の見識や応答に社会性が伴っていることを期待します。 |

[2019（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|---------------|--------------|--|
| 生活環境学セミナー | 塚原 肇 | 前期は椅子作り、後期はクラフト紙を使っているいろいろなモノを構成する訓練でした。初めての試みだったので苦労も多かったと思いますが一応の結果は出たと思います。2020年度の卒業制作に役立ててください。 |
| 生活環境学セミナー | 槇 究 | 全体的な評価はすべて高いが、スピードは速すぎるという結果。ゼミとして多くの活動に取り組んだのが、速いという印象と結びついているのでしょうか。例年と同じくらいの量なのですが、今年は、そう感じる人が多かったみたいです。次年度以降、調整が必要か、考えてみます。 |
| 生活環境学セミナー | 山崎 和彦 | いつの時代にも、真っ当な学生とそうではない学生がいるので、ひとくくりに「現代女子学生気質」を論じるわけには行かないが、この頃、ただ呆れ、失望するばかりといった学生が目立つ。我がメールへの反応も鈍い。ゼミの役割のひとつが「しつけ」であるとすれば、はて、どうしたものだろう。 |
| 福祉住環境論 | 橋 弘志 | 全体に平均的あるいは少し上という評価となった。ふだん福祉には馴染みのない学生にとって、新たな知識が得られ、理解が深まったというコメントが見受けられた。福祉の世界はどんどん変化し続けているので、なるべく新しい話題を入れながら授業を構成していきたい。 |
| マーケティング論 | 大川 知子 | 約4ヶ月に亘る授業、お疲れ様でした。みなさんからのアンケートを拝読しました。授業の課題としては、板書の文字の分かりにくさがありました。スクリーンがホワイトボード全面に掛かってしまう為、運営も大変でしたが、使用するペンも変更する等して、来年度は対応します。 授業の内容では、特に、新聞記事を紹介頂く課題では、みなさん一人一人が取り上げる内容が新たな知見に繋がり、この授業に膨らみを持たせてくれました。今後も、自分の好きな情報だけでなく、新聞というあらゆる事柄が一度に視覚に入ってくるメディアを、社会の動向を知る手段として活用下さい。 今回の新型コロナウイルスが社会経済に与える影響は甚大なものがあり、回復には相当な時間を要するものと思います。そういう時代に生きるみなさんは、SWOT分析のように、機会／脅威は変えられずとも、みなさん一人一人の強み／弱みを、それぞれの環境要件に対応させながら、逞しく乗り越えて欲しいと思います。 今回の授業で得た様々な角度のモノの見方を、今後のみなさんに生かして頂きたいです。4月からは最終学年。引き続き、頑張ってください。 |
| 住居デザイン論 | 橋 弘志 | 授業に対する評価は、全体の平均とほぼ同等である。スライド等はいないため、全体に板書が多くなり、進みが早いと感じる学生もいたようである。演習の要素を取り入れて、なるべく体感しながら理解する内容を多くしている。授業で取り上げたさまざまな知識を応用し、自分で住居のデザインに挑戦するような演習も取り入れていきたい。 |
| 生活環境科学 | 牛腸 ヒロミ, 塚崎 舞 | ”まあまあ理解できた”レベルが最も多いのですが、週に2時間以上予習復習をしている人は1割強です。もう少し予習復習をして、”十分理解できた”に近づきましょう。私もできるだけ理解しやすい説明やバロバ作成を試みます。 |
| 生活機器設計演習 | 塚原 肇 | 課題は楽しめましたか。 身の回りの材料を使って生活に役立つ道具を作る演習でした。これからは家庭でいろいろ応用してください。 |
| ファッションビジネスの世界 | 大川 知子 | 約4ヶ月に亘る授業、お疲れ様でした。みなさんから頂いたアンケート結果を拝読し、総合的な満足度が「どちらかと言えば当てはまる」も含めると92.5%有り、有意義な授業になった様子が伺え、安心しました。特に、各々見学頂いたMademoiselle Prive展の反響は大きいものがあり、こういった貴重な機会にみなさんが出会えたことは、何よりでした。 ご指摘の中の課題としては、板書の際のスピードがありましたので、今後、注意して行きます。また、わたしからも、みなさんにもお願いがあります。ディスカッション等を限られた授業内で実施する際には、事前に与えられた課題を各自が責任を持ってやって来るのが前提です。今後も、同様のことがあれば、積極的に取り組むよう、それが結果として、3年後のみなさんの力になりますので、頑張ってください。 |
| アパレルデザイン実習 a | 川上 梅 | この授業を通じて「自分の成長」が「とても実感できた」は54.5%、「どちらかと言えば実感できた」は45.5%と、ほとんどの学生が成長を実感していることは嬉しく、授業を行う私の励みに繋がります。 |

[2019（後期）生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

| コース名 | 教員名 | 教員からのコメント |
|-------------|--------|---|
| テキスタイル管理実験 | 牛腸 ヒロミ | この授業に関して皆さんが予習復習に時間を費やし努力していることが見て取れます。しかし授業内容の理解はよくないようです。こちらは分かりやすい説明をするよう努力しますが、皆さんは実験の基礎となるテキスタイル管理学や染色加工学の授業を十分理解するように勉強してください。 |
| プロダクトデザイン演習 | 塚原 肇 | 授業の内容は理解できましたか。 今後のプロダクトデザインの基礎となる演習ですから しっかりと理解してください。 分からないことや疑問があればいつでも相談にのります。 |
| 生理人類学実験 | 山崎 和彦 | 実験科目を履修する／しないは、卒業論文の出来不出来に直結する。レポート提出が遅れ気味の学生がいたが、何かしら益するところを感じ取って欲しいものである。主に3年生を対象とする科目であるが、優秀な4年生2名の受講があって、全体により影響を及ぼして下さった。感謝している。 |
| I C T 基礎演習 | 佐藤 健 | 授業の時、構築したサーバーは、いくつかのアプリケーションを実装しサービス公開にむけて調整中です。関心があれば、またの機会に期待しています。 |